



# 40年ぶり 再集結

1960年代に流行したGS(グループサウンズ)の人気バンド、ザ・タイガースが8日、40年ぶりに「再集結」した。歌手・沢田研二(63)が東京・有楽町の東京国際フォーラムで開いた全国ツアーの初日公演で、瞳みのる(63)、森本太郎(63)、岸部一徳(当時修三)(64)が出演した。瞳がステージ上がるのは、1971年に日本武道館で行われた解散コンサート以来。沢田は「40年ぶりにピーが帰ってまいりました」と瞳を愛称で呼んで紹介。バンド時代の18曲を披露してファン5000人を沸かせた。

# ザ・タイガース

瞳は71年解散時以来のステージ

会場が「ピー」コールで包まれた。ドラムセツトに座ったピー(瞳は、ジュリー(沢田)、タロ(森本)、サリー(岸部)との40年ぶりの演奏による会話を楽しんだ。中盤では沢田と並んでボーカルも披露。解散当時と変わらないスリムな体形で、ステージを駆け回り、シャウトした。タイガースは67年にデビューし、ヒット曲を連発したが71年に解散。瞳は同時に芸能活動を引き退し、慶応大学に進学。その後、慶応義塾高の漢文・中国語の教員を務め、メンバーとも疎遠に。82年に「同窓会」と称して、集結した際にも瞳だけは参加しなかった。しかし、08年に沢田が瞳に捧げる「Long Good-bye」を発表

したことをきっかけに、メンバーと再会。昨年、瞳が教職を辞め、音楽活動再開したことを機に一気に「再結成」へ加速。諸事情で加橋かつみは参加しなかったが、オリジナルメンバーの集結が実現した。ステージではミリタリー風の衣装を着てピット曲「シーサイド・パウンド」「花の首飾り」など、タイガースナンバーを中心に演奏。瞳が「秋が来て、キッチンヨー(緊張)の夏が続いています」とジョークであいさつすると、沢田が「先生、そんなこと言っていないの?」とツッコ

こみ、同窓会のようなトクで5000人のファンの笑いを誘った。全国ツアーは、来年1月24日の東京・日本武道館まで開催。会場は、40年前の1月24日に解散ライブを行っており、ひときわ盛り上がりそう。ザ・タイガースとは、沢田研二、岸部一徳、加橋かつみ、瞳みのる、森本太郎の5人で結成。1967年に「僕のマリー」でデビュー。続く「シーサイドパウンド」「モナリザの微笑み」が大ヒットし、グループサウンドをけん引する。68年には日本初のスタジアムコンサートを開催。69年には加橋が脱退し、岸部の弟の岸部シローが加入したが、71年に日本武道館で解散コンサートを開き、歴史に終

①40年ぶりに再集結したザ・タイガースのメンバー。左から岸部一徳、沢田研二、瞳みのる、森本太郎、東京国際フォーラム撮影・出月俊成  
②全盛時のザ・タイガース(左から森本太郎、瞳みのる、沢田研二、加橋かつみ、岸部一徳)